

# グループワーク

今後の講座に向けて

日時：平成25年7月20日（土） 10:00～12:00

講師：高野雅夫、田中隆文（あいち海上の森大学コーディネーター）

## 概況



「今後の講座に向けて」

あいち海上の森大学コーディネーター 高野雅夫先生、田中隆文先生

あいち海上の森大学コーディネーターの田中隆文先生により

- ①里山文化
- ②持続可能な社会
- ③林業再生
- ④森林再生

の4つのキーワードが提示され、座標軸上に置かれた。受講生はその座標軸上に自らの考えに近い部分に名前を貼り、考えが近い人同士でA、B、C、D、Eの5つの班に分かれた。グループごとに新たなキーワードを設定し、ディスカッションが約1時間行われた。

その後、それぞれが発表を行った。

・A班は『持続可能な地球』をキーワードに、それぞれが、里山再生による豊かな森づくりについて、自然と共に無理なく生きることについて、人が集まる里山を作ることについて、「千年の森構想」として里山文化をどうするかについて、発表された。

・B班は『あこがれる山村生活』をキーワードに、それぞれが、山で暮らせる社会と住んでみたいと思う山村づくりについて、明るい農村林業について、山村で生活基盤をつくるための新しい切り口について、林業がお金になり若者や企業が携われるようにすることについて、発表された。

・C班は、『自然にカエル』をキーワードに、それぞれが、精神的なサプリメントとして

の里山について、里山文化衰退への危機感について、里山文化の再生や自然への回帰について、親世代の教育の大切さについて、モデルをつくり「再生のゴール」を示すことについて、自然と生活のレベルのバランスについて、若い世代に伝えることについて、発表された。

・D 班は『千年続けよう！！偉大なる野生の共生・循環』をキーワードに、それぞれが、自然に対するの畏怖について、その人に合った自然との暮らし方をする「マイペース社会」について、「野生児」を育て人の痛みがわかる大人にすることについて、間伐材の有効利用ができるシステムを構築することについて、次世代の子供たちに自然を感じてもらうことについて、「何もしない」ことも大切なのか、ということについて、発表された。

・E 班は『バランスをとりながら循環すること』をキーワードに、それぞれが、里山・人工林などのバランスをどうするのかについて、森がないと人は生きられないことについて、持続・継続するためにはどうすればよいのかについて、循環することの良さについて、荒れた山をどうするのかについて、知床の開拓の歴史について、発表された。